別紙

岐阜農林事務所の普及活動状況

令和２年１１月２５日

今月の重点活動

■スマート農業　小麦播種前耕起にロボットトラクタを活用

【ロボトラ耕起作業】

瑞穂市巣南町の(農)巣南営農組合では国の「スマート農業加速化実証プロジェクト」において、各種スマート農業機械を活用して小麦と輸出用米を組み合わせた３年５作体系の現地実証に取組んでいる。

今年度、当該法人では実証水田を含め 33ha で小麦を栽培する計画であり、11 月 17 日から播種作業に取組んでいる。小麦の発芽を良くするため、稲刈後に耕起し、それから播種を行っているが、この耕起作業にロボットトラクタを使用し作業の効率化とスマート農業機械の稼働率向上を図っている。

農業普及課では、稲作におけるロボットトラクタの作業性や作業時間の調査を行い、一般トラクタに比べて 1.2 倍の作業効率である事を確認しており、さらに小麦播種前耕起においても作業効率を確認すると共に栽培小麦の単収・品質向上に向けて指導を続けてゆく。

（地域支援第三係・松本　政行）

多様な担い手づくり

■新規就農支援　令和２年度岐阜地域農業担い手情報交換会

【事例発表の様子】

11月10日に「令和２年度岐阜地域農業担い手情報交換会」をＪＡぎふ北方支店で開催し、新規就農者及び農業関係団体担当者ら45名が出席した。

初めに「清流の国ぎふ農業担い手証書」授与式、新規就農者6名による自己紹介に引き続き、岐阜農林事務所長より「激励の言葉」が送られた。

新規就農者の事例発表では、平成30年に北方町で就農した安藤氏が、「今後の農業経営の目標」という題目で、就農至るまでの経緯や農業経営、今後の目標が語られ、農業経営に関しては、従業員教育や働きやすい職場づくり、ＧＡＰへの取り組み事例を紹介するとともに、直売所や６次産業化への夢を語られた。

講演では、いちごいちえ総合経営プランニングの遠山氏から、「新規就農者の経営定着・経営発展に向けて」という題で、農業経営を身近な事例に例えて、分かりやすく講演された。終了後も就農者同士で情報交換する場面も見られ、有意義な交換会となった。

（地域支援第一係　山田　和彦）

新たなブランドづくり

■ニンジン（各務原市）　冬にんじんの収穫始まる

【収穫されたにんじん】

11月16日から各務原にんじんの収穫が始まった。

今年の８月は降雨が少なく、発芽遅延などの問題はあったものの、かん水や追肥を行うなど栽培に苦労したが、その甲斐あって、品質の良いものが穫れている。

収穫は12月も続くが、農業普及課では、栽培終了後、次作に向けての管理などの指導を行っていく。

（地域支援第二係・水川　誠）

■エゴマ　試験栽培のエゴマをそばコンバインで初収穫

山県市の(農)おおがは、名古屋大学発のベンチャー企業で農産物の品種や生産方法の改良を掛けている(株)グランドグリーンと今年度から共同でエゴマの試験栽培に取り組んでいる。

11月６日には、６月中旬に播種し７月下旬に定植したエゴマをそばコンバインで収穫した。試験栽培では、県内産地や世界から集めた約200品種のエゴマを11ａの圃場で栽培し、品種特性や山県地域での適応性を確認した。

今後は、収穫したエゴマを油に加工して品質を確認し、高品質で安定生産できるエゴマの品種改良と山県市での産地化を目指す事としている。

農業普及課では、先進地でのエゴマ栽培技術について情報収集を行い、山県市におけるエゴマの産地化を支援していく。

【エゴマの収穫】

（地域支援第三係・河合　浩子）

売れるブランドづくり

■水稲　令和３年産水稲栽培暦説明会を開催

11月11日、13日に、令和３年産水稲栽培暦の説明会がエリアごとにＪＡぎふの４支店で開催され、ＪＡぎふ（米穀課及び各支店担当者）、ＪＡ全農岐阜、岐阜農林事務所農業普及課の水稲指導の関係者が各会場20名程度が出席した。

研修会では、普及課より令和３年産水稲の作柄及び、令和３年産栽培暦の変更点について説明を行った。令和２年産は、トビイロウンカによる坪枯れ被害が大きかったため、箱施薬剤をウンカ類に長期持続性のある新規剤に変更した。さらにカメムシ類やジャンボタニシの防除の徹底を図るように説明した。

【研修会の様子】

また、ＪＡ全農岐阜と農薬メーカーからは、新たに採用した農薬について説明がされた。

今後は、水稲暦の変更点について、各地域でＪＡ担当者から農業者への説明会を開催し、令和３年産水稲の安定生産を図っていく予定である。

（地域支援第一係　小島　康平）

■ブロッコリー　秋冬ブロッコリー目揃会の開催

11月12日、20日にＪＡぎふブロッコリー生産連絡協議会の目揃会が開催された。全農岐阜の担当者から出荷計画と販売方針について、ＪＡぎふの担当者から出荷要領について説明があった。農業普及課からは、今後の栽培管理と収穫及び選果の注意点について説明した。

今年は、11月中は気温が高い予報で花蕾が黄化しやすい状況であること、また、ハスモンヨトウが多発生したほ場では花蕾への侵入が心配されることから、収穫や収穫後の扱い、箱詰め前の害虫の確認をより丁寧に行う必要がある。

【目揃会の様子】

今後も期間を通して高品質なブロッコリーの出荷がされるように支援を行う。

（地域支援第一係・鈴木　郁子）

■いちご　ＪＡぎふ本巣いちご部会目揃会の開催

11月14日、ＪＡぎふ糸貫いちご出荷場において、ＪＡぎふ本巣いちご部会の目揃会が開催された。

ここ数年、11月中旬頃の早期出荷が続いていたが、本年は頂花房分化の遅延、10月以降の低温により本格的な出荷は12月以降となる見込みである。

農業普及課からは現在の生育状況と今後の栽培管理について説明を行った。本年は気温変動の大きい気象となることが予想されている。現在、草勢が弱い場合は厳寒期を乗り切れるように11月中に天候、気温等を最大限利用して草勢向上に努めるように説明を行った。

【目揃会の様子】

（園芸産地支援第一係・菊井　裕人）